

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-8419  
 住 所 東京都港区西新橋一丁目14番1号  
 氏 名 東亜合成株式会社 印  
 代表取締役社長 橋本 太  
 (代理人) 川崎工場長 本間 日佐夫  
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東亜合成株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町7番4号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	特殊アクリレート製造、ポリ塩化ビニル製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		11,802 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	TOAエンジニアリング株式会社
		所在地	川崎市川崎区浮島町7番4号
		電話番号	044-277-2214
		FAX番号	044-277-1920
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 5,175 t-CO <sub>2</sub> (調) 4,847	(実) 5,845 t-CO <sub>2</sub> (調) 5,482	22,836 t-CO <sub>2</sub> 20,791	23,079 t-CO <sub>2</sub> 20,991	(実) 27,334 t-CO <sub>2</sub> (調)
削減率		(実) -12.9 % (調) -13.1	-341.3 % -328.9	-346.0 % -333.1	(実) -428.2 % (超)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	t-co2/kt	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	1,163	1,146	1,127	1,097	1,129
削減率		1.5 %	3.1 %	5.7 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	排出量は、12.9%増加となりましたが、精留りボイラーのsteam元圧UPで精留能力UPによる生産能力UPで、生産量が増加となり、排出量原単位は1.5%向上となりました。
第2年度	ポリ塩化ビニル製造設備が平成23年度より稼働した為、排出量は基準年度比341.3%増加しましたが、原単位は3.1%の削減が出来ました。
第3年度	前年度に引き続きポリ塩化ビニル製造設備が稼働した為、排出量は基準年度比346.0%の増加となりましたが、原単位は各種施策、特に廃熱回収と電力削減が功を奏し5.7%の削減ができました。原単位に関しては3ヶ年で順調に削減できました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第 1 号、 第 2 号、 第 4 号該当者等)	計 画	<p>(1) 環境マネジメントシステム導入 (2) 省エネルギーの推進</p> <p>①. 精留ラインの蒸気元圧UPで精留能力をUPし、全体で蒸気量を削減する。 ②. 原料を冷水のプレアールでプレアール冷凍機負荷の低減で電力量削減する。 ③. 年次予算に合わせ電力契約見直し。(デマンド計で最大電力管理) ④. 小型UPS(10kVA)の負荷を30kVAUPSに負荷移行し小型UPSを停止して電力削減する。 ⑤. ランプ交換時に節電型ランプへの交換</p>
	第 1 年度	<p>(1) ISO14000を導入した。 (2) 省エネルギーの推進</p> <p>①精留ラインの蒸気元圧UPを実施完了した。 ②試験したが、全流量が流せない課題が残った。 ③電力契約の見直しをし、必要最低限の契約を結んだ。 ④ランプ交換時に節電型ランプへの交換を実施した。</p>
	第 2 年度	<p>(1) PVC製造設備にISO14000を導入した。 (2) 省エネルギーの推進</p> <p>③PVC製造開始に付、電力契約を見直した。 ④ランプ交換時に節電ランプへの交換を実施した。 (追加項目) ⑥小型冷水冷凍機を停止し、成績係数(COP)が大きい大型冷水冷凍機に切替。 ⑦PVC乾燥工場のエアヒータの前に温廃水を有効活用したプレアールヒータを設置して蒸気量の削減を計った。</p>
	第 3 年度	<p>(2) 省エネルギーの推進</p> <p>③電力契約の見直しを実施した。 ④ATBS設備のUPS(10kVA)を外してこの負荷をPVC設備のUPS(30kVA)に寄せ替えた。 ⑤構内道路灯や事務所内照明にLED灯具や人感センサー付きを採用した。 ⑧PVC製造設備の重合槽昇温工程において、1)冷えた戻り温水を別置きの冷水タンクに横取りすることで温水タンク昇温用の蒸気を削減した 2)温水ポンプをインバーター化して電力を削減した。 当初計画した①～⑤を敢行すると共に、新たに⑥⑦⑧の施策を推進し3ケ年で電気と熱双方に成果を上げた。</p>
自動車等 (第 3 号該当者等)	計 画	
	第 1 年度	
	第 2 年度	
	第 3 年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"><li>・プラント修理等で発生する廃棄物を分別し、減量化を推進する。 具体的には、鉄屑、プラスチック類、紙屑、ガラス類、電池、木屑に分別を実施</li><li>・工事業者に対し、出来るだけ乗合って、来社する様に指導する。</li></ul>
第1年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄物の分別を維持する為、標識を修理した。</li><li>・定修前に業者安全会議を開催し、出来るだけ乗合って、来社する様に指導した。</li></ul>
第2年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄物の分別置場仕切り板が劣化した為鉄柵を更新し、分別の維持を計った。</li><li>・定修前の業者安全会議の中で出来るだけ乗り合って来社し車両を減らす様に指導した。</li></ul>
第3年度	<ul style="list-style-type: none"><li>・大型廃棄物の分別置場を整備する提案をし仮認可を受けた。</li><li>・大規模工事では川崎市エコ運搬制度を励行する様業者に依頼した。</li><li>・社有送迎バスを廃止し公共交通機関による通勤に切り替えた。</li><li>・3ヶ年継続して成果を上げた。</li></ul>

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	24,196	t-CO <sub>2</sub>
(調)	24,172	

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガスの 排出の量
川崎工場	川崎市川崎区 浮島町7番4号	1639 1635	特殊アクリレート製造 ポリ塩化ビニル製造	24,196 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガスの 排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガスの 排出の量
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--